

こんにちは。きゅうしょくカンガルー！（奈良の学校給食を考える会）です。
みなさまいかがお過ごしでしょうか。有機栽培を学ぶ BLOF 理論栽培技術実践型
講座がはじまりました！1回目は約60名の方にご参加いただき嬉しいかぎりです。
私たちは、おいしい給食&ほんとうの食育をめざして活動しています。

このメルマガは、私たちの活動や奈良県内の給食をめぐる状況をお知らせしたく、
今までの活動の中で連絡先を交換させていただいた方を中心にお送りしています。
メルマガ解除をご希望の方は、お手数ですが、
oishiikyusyoku@gmail.com まで解除希望の旨をお書き添えの上ご連絡ください。

■ ■ もくじ ■ ■

1 みどりの食料システム戦略

■ 1 ■ みどりの食料システム戦略

5月12日、農林水産省は「みどりの食料システム戦略」を策定しました。
<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/index.html>

「みどりの食料システム戦略」では、2050年までに目指す姿として、

1. 農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現
2. 化学農薬の使用量をリスク換算で50%低減
3. 化学肥料の使用量を30%低減
4. 耕地面積に占める有機農業の取組面積を25%、100万haに拡大等の目標を掲げています。

「ネオニコチノイド系農薬を含む従来の殺虫剤を使用しなくてもすむような新規農薬等の開発により、化学農薬使用量（リスク換算）の削減を目指す」と書かれ、「化学農薬のみに依存しない総合的な病害虫管理体系の確立・普及等を図る」ために、天敵の活用や、水田の水管理による雑草の抑制に言及しています。

一方で、RNA農薬の開発や、画期的に肥料効率の良いスーパー品種の育種を遺伝子組み換え技術を使って行うなど、バイオテクノロジーについても多くの記載があります。しかし、そのような生態系循環と相いれない技術には注意が必要です。

「みどりの食料システム戦略」にはイノベーションということばが多用され、2050年の目標達成には革新的技術の開発が不可欠とされています。たしかに、2050年までの30年で耕地面積に占める有機農業の取組面積を50倍にするためには、これまでの延長線上では不可能であることは確かです。しかし、大規模集約や先端技術ばかりを追いかけ、農家や消費者の顔が見えなくなるのではと心配です。

国連は、2019年～2028年を国連「家族農業の10年」として定め、食料安全保障確保と貧困・飢餓撲滅に大きな役割を果たしている家族農業の推進・知見の共有を求めています。世界の食料生産額の8割以上を占める家族農業を中心に、地域に根差した顔の見える関係の中で、有機農業を拡大していければと思います。

●来月もお楽しみに♪●

メルマガ発信元 : きゅうしょくカンガルー! (奈良の学校給食を考える会)
E-mail : oishiikyusyoku@gmail.com
facebook : <https://www.facebook.com/oishiikyusyoku>
事務局 : 生活協同組合コープ自然派奈良内 (奈良市今市町40-1)
